

中学校歴史的分野「テーマ史 感染症」

* 高大連携歴史教育研究会・第6回大会（2020）パネル③「中学校、高校、大学の接続と歴史的思考力の継続的育成－「感染症と社会」の授業を共通実例にして－」 報告2 行壽浩司「感染症は社会をどう変えるのか－ペストの流行と西欧社会の変化－」発表資料より引用

○単元構想

本授業プランは、中学校歴史的分野において、「感染症」をテーマに教材を開発し、それがその後の人類の歴史にどのような影響をもたらしたかを、今現在の私たちの暮らしと関連付けながら考察していく。これは高等学校における歴史総合の授業へのつながりを意識したものであり、中学校歴史的分野の範囲において、近代史を舞台に、歴史的事象と現代の私たちとを関連付けて学習していく過程を学習することを意図している。本授業プランで扱う時代は中世の終わりから近世にかけてであり、「感染症」によって人々の生活システムが変化し、社会全体がパラダイムシフトしたことによって中世が終わりを迎えたという捉え方を生徒自身が学習を進めていく中でつかませていきたい。

○教材観

現行の中学校社会科において、「感染症」を扱った学習内容は乏しく、資料集において先住民インディオの減少の原因として触れられているに過ぎない。「感染症」という社会的事象の歴史的意義は何なのか、「感染症」の流行によって、世界の歴史にどのような影響を及ぼしたのか、生徒が主体的に考察していくことが、高等学校「歴史総合」の学習へつながっていく。

○単元目標

感染症の歴史を通して、歴史的推移とつながりを理解し、現在の諸課題と関連付けて考える。

○授業案学習展開・発問	答えさせたい発言
○大航海時代にコロンブスが新大陸を発見し、大西洋の三角貿易が始まった。アフリカから奴隷を連れて行ったのはなぜか。 →先住民の減少をグラフで確認させる。 ○なぜ先住民が大幅に減少しているのか。 ○顕著な事例としてメキシコ中央部では 80 年間で 2414 万人の人口減少であるが、これは 1 年間で約 30 万人、1 か月で約 2.5 万人、1 日で約 833 人、1 時間で 35 人である。2 分で 1 人以上の人口減少を 80 年間続けてやっと到達できる数字である。これは現実的に可能なのか。 ○虐殺や強制労働では説明のつかない何か別の原因がある。それは天然痘という病原菌による減少である。先住民には天然痘の抗体がなく、ヨーロッパの人々には抗体があった。ではなぜヨーロッパの人々には天然痘の抗体があり、先住民には抗体がなかったのか。 ○東西に長いユーラシア大陸では緯度の変化が小さいため人や家畜の移動が比較的容易である。対して、南北に長いアフリカ大陸や南アメリカ大陸では緯度の変化が大きいため、人の移動が困難であった。このような地形の違いが病原菌に対する抗体に差が生じたのではないか。 ○また、コロンブスによって梅毒がヨーロッパに広がっていった。このことから、人種の違いではなく、人の移動によって病気が広がっていくことがわかる。	・先住民の減少により、北アメリカ大陸の労働力が不足したから。 ・先住民が大幅に減っている。 ・重労働で人口が減ったのではないか。 ・虐殺されたのではないか。 ・戦争があったのではないか。 ・ありえない。 ・2414 万人と聞いてもピンとこないが、とても多い数字だと思う。 ・人口減少には別の要因があるのではないか。 ・病気で死んだのではないか。 ・わからない。 ・過去に病気がヨーロッパの方で流行し、その時に生き残った人たちがその後増えていったからではないか。 ・ヨーロッパの人の方が戦争とかしていて、人の行き来があったのではないか。 ・大陸の違いが歴史に影響を与えたというのは驚きである。 ・ヨーロッパにはなかった病気が新大陸からもたらされた。 ・人の移動によって病気が広がるのは今も昔も変わらないと思った。

